

県1周辺に管路を通す作業を終え、引き上げられた掘削機
(23日午前3時半ごろ)



あがた

県第1雨水幹線 383メートル完了

市の豪雨対策 全区間完成 34年度予定

豪雨の際に市街地に降った雨を滞りなく河川に排水するため松本市が新設する地下水路「県第1雨水幹線」の工事で、最初に始まった県1周辺の雨水管埋設工事が23日に完了した。円筒形の掘削機を使い、深さ4・6メートルの地点に長さ約383メートルにわたって穴を掘り、直径約1・4メートルの鉄筋コンクリート製の管を通した。「近年にない大工事」（市建設課）となったが、昨年9月の着工から1年足らずで完了となった。

(田子元気)

市街地を流れる長沢川と地蔵川の流域の治る工事を行い、年度内水対策の一環で、工事には排水路として機能費は約3億3600万をさせる。

23日午前0～4時



に、役目を終えた掘削機を引き上げる作業が行われた。雨水管が通る地上部分の市道(通

ン車)で掘削機が無事に

引き上げられると、作業員はほっとした表情を浮かべていた。県第1雨水幹線は全長が1940メートルで、全区間完成は平成34年度を予定する。総事業費は約11億9600万円を見込む。女鳥羽川までの管路が完成した後、区間南側のあがたの森公園(蚕糸記念公園)区間の工事に取り掛かる。市建設課は「雨水管を通すことで市街地の冠水は大幅に減る」と期待している。